



令和3年度

学校が元気に！地域が元気に！

コミュニティ・スクールだより No. 3

かほく市立高松中学校
校長 漢野 有美子
学校CN 藤本 深帆
コーディネーター

～古タオル回収のご協力ありがとうございました～

高松中学校“ジュニアボランティアサークル絆”が、6月7日（月）～11日（金）の期間、“古タオルリメイクプロジェクト”として、古タオルの回収を実施しました。このプロジェクトは、“デイサービス暖”的利用者さんが、古タオルをぞうきんに作り変え、かほく市内の小学校に100枚づつプレゼントする取り組みです。絆のメンバーが、ぞうきんの材料となる古タオルをたくさん集めたいとのことで**大海小学校、高松小学校**にも、回収の協力をお願いしました。両小学校とも、たくさんの古タオルを回収して下さいました。

6月16日、3校で集まった古タオルを絆のメンバーがデイサービス暖へ寄贈しました。（その様子は北國新聞に掲載されました。）

寄贈したタオルがどのようになってくのか、デイサービス暖さんが経過を報告してくださいます。

**大海小学校、高松小学校、高松中学校のみなさん、
回収のご協力ありがとうございました。**



6月10日 ぶどう栽培を通した地域学習（1年生）

6月10日 高松ぶどう生産組合、JA石川かほくから講師の方をお迎えし、中庭にある高中ぶどう園を見学し、講師のみなさんにいろいろな質問をしました。

高松ぶどう生産組合 組合長 大田 昇さん この道40年超の大ベテランの大田さんは、ルビーロマンの開発に携わり、常に新しいことにチャレンジされています。今後は、ぶどうだけでなく、いろいろな野菜を育て1年を通じていつでも収穫できる畑にしたいそうです。また高松ぶどう栽培100年を迎える次の100年に向けて高松ぶどうの後継者が育ってほしいと話してくれました。

竹田ぶどう園 竹田尋平さん 学校の中庭にある「高中ぶどう園」の立ち上げからお世話をしてくれています。竹田さんは、とても広いぶどう畑をお持ちで、高松で一番早く出荷するぶどうを作っています。もともとは介護士のお仕事をされていましたが、お父さんの畑をぜひ引き継いでいきたいと転職され、今はお父さんの竹田日出夫さんと一緒にぶどうを育てています。

中川ぶどう園 中川 真さん 中川さんは、東京で会社員をしていましたが、東日本大震災を機に故郷の金沢に戻りました。出張先で食べたりんごの美味しさに感動して、果物を育てる仕事をしたいと思っていましたので、縁あって高松でぶどう農家になりました。就農して6年目だそうです。高松ぶどうの基準を満たすぶどうを育てることは大変で、ぶどう農家の先輩方に1から厳しく指導されました。負けたくないという気持ちで頑張っているそうです。

JA石川かほく 櫻井和幸さん 櫻井さんは、高松ぶどうの販路や市場調査、ぶどうの品質保持について、中川さんのように就農された方の支援をされています。

講師の方々は、仕事をして感じるたくさんの苦労や、喜び、やりがいを話してくれました。生徒たちは、たくさんの質問をしてとても真剣に耳を傾けていました。



6月17日 2年生「マナー講座」を実施しました

ジョブカフェ石川の森田さんを講師にお招きして、マナー講座を実施しました。今年度も7月に地域の職業人の方々をお招きし、学校で職業体験をします。働く目的や仕事を選ぶ手がかりを考え、社会人としての挨拶やマナーについて学びました。森田さん、細かいところまで丁寧に教えてくださりありがとうございました。

【生徒の感想】

- ・「人としてのマナー」「なぜ仕事をするのか」「仕事を選ぶ手がかり」「場合にあった丁寧なお辞儀」「お客様のご案内」などいろいろなことを教わることができた。学校生活でも、社会でも活かすことができるのでこれから気を付けて生活していきたい。
- ・今日のお話を聞いて、働く目的をしっかりと考えようと思った。
- ・社会人のマナーとして時間や約束を守る理由がわかった。しっかりと自分の責任が果たせるよう行動したい。
- ・仕事を選ぶ時に、自分が好きなことや得意なこと、やりがいを感じることを考えると、自分の必要な仕事が見えてくるとわかった。働く時は、人としてのマナーや責任感、我慢強さが大切になることがわかった。
- ・社会人としてのマナーは、相手と自分の見方、見られ方が大切だと思った。
- ・お辞儀は、場合にあった丁寧なお辞儀のやり方があり、角度によって意味が違うことを知った。
- ・態度やマナーはあたりまえにできていないといけないので、今一度自分がしっかりとできているか確認するよい機会になった。仕事を選ぶ手がかりを意識して自分にあった仕事ができるようにしたい。

